

『みんなが安心できる学校生活～自分も相手も大切に～』

藤枝市立広幡中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	第1ステージ「であう」 ・2、3年生による入学式の会場準備 ・教室装飾活動 ・学級開き ・1年生を迎える会 ・結団式 ・部活動の体験入部	【生徒集会】 ・1迎会や結団式内で異学年交流を行い、1年生に中学校生活への安心感を生み出す。 ・表彰集会で生徒を紹介し、功績を称える。 【生徒会や委員会を中心とした活動】	【職員研修】 ・ピア・サポートの理念や取り組みについて職員、生徒に伝える。 ・アセスを実施し、生徒理解研修や個別の支援計画に活用。
5月	学年行事 ・修学旅行	★特別な場に限らず、同学年・異学年関係なく支え合いができる生徒の育成を目指す。	【随時】
6月	・歌おう集会	・昼の放送で保健専が「友達への感謝」等を紹介し、ピア・サポートの輪を全校へ広げる。	・各専門委員会(特に保健・広報)と連携し、ピア・サポート活動の啓発を推進。
7月	・歌おう集会		
8月	第2ステージ「つくる」 ・体育祭団練習	・3送会や卒業式で在校生による3年生への感謝のメッセージを掲示・放送する。	【学級】
9月	・体育祭団練習 ・体育祭	【縦割り活動】	・掲示や学級通信を活用した、学級内でのピア・サポート活動の発信・啓発。
10月	・文化祭	・体育祭や文化祭練習での団別練習。	・生徒の自己肯定感を高めたり、お互いの良さを認め合ったりできる学級づくり。
11月	第3ステージ「ふかめる」	・縦割道徳 ・清掃活動	・授業を通じた、温かな人間関係づくり。
12月		【学級・個人】	【長期休暇】
1月	第4ステージ「はばたく」 ・縦割り全校道徳	★周りと関わる中で自分や相手の良さを認め合い、温かな雰囲気づくりを目指す。	・ピア・サポート養成研修等に積極的に参加する。
2月	・新入生説明会	・年度当初の学活で、生徒同士が協力し合う活動を取り入れ、新しい環境下での生徒の不安を解消する。	
3月	・3年生を送る会 ・小6との紙上交流活動 ・教室の整備、清掃 ・1、2年生による卒業式の会場準備、教室装飾活動 ・卒業式	・行事で発見したピア・サポートを振り返り、学級内で発表し合う。 【小中連携】 ★小学6年生への学校紹介。	

1 本校のピア・サポート

本校は、周りと関わる中で自分や相手の良さを認め合い、温かな雰囲気づくりを目指している。過去の歴史から「おもいやり」に重点を置き、幾度となく生徒におもいやりと生命の大切さを伝えてきた。引き続き、おもいやりの育成を重点目標に掲げ、そうした行動を積極的に価値づけ、特別な場に限らず、同学年・異学年関係なく支え合いができる姿を目標としている。

2 特徴的な活動

【提言4】

縦割り活動の充実。

体育祭の団活動、文化祭の団合唱、全校道徳での縦割り道徳、縦割り清掃。

3年生から1年生への校歌指導（帰りの会）。

1年生と6年生が交流する時間をもつ（新入生説明会）
→1年生にとっても「進級後に後輩を助けよう」という思いが高まる。

【提言6】

学級単位では、日々の日直の活動を班で取り組ませることで仲間と助け合う場面を学校生活の中に意図的に設定した。帰りの会ではピア・サポートをしてくれた人やクラスのために頑張ってくれた人を「本日のMVP生徒」として発表している。

4月から縦割り集団を活用して体育祭練習や文化祭の合唱活動へ取り組んだ。上級生が下級生を自然と指導することが伝統になっている。

生徒会によるイベントの企画（全学年教員がイベントに参加し交流を図る。）や道徳授業「世界の子どもたち」（人権・福祉）を行ったのち、ユニセフ募金活動を実施した。

【提言7】

保健専門委員によるピア・サポート活動の紹介（放送・掲示）。昼の放送で保健専が「友達への感謝」等を紹介し、ピア・サポートの輪を全校へ広げる。

広報専門委員による3年生への感謝のメッセージの紹介（放送・掲示）。昼の放送で広報専門委員が在校生から3年生に向けた感謝のメッセージを紹介する。

清明賞（学期ごと、クラスごと頑張った生徒やクラスを支えてくれた生徒を賞揚）

【提言8】

学校での取組について、学校便りや毎週発行している校長通信などで生徒の活動の様子や現れについて保護者へ情報発信した。学校便りについては地域への回覧なども行っている。



3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度は、生徒の組織を生かし、縦割り活動の充実に力を入れた。団での活動期間が長くなったり、全校生徒参加のイベント活動が増えたりしたことで、上級生から下級生へ助ける場面が増え、おもいやりが連鎖していくことを期待している。

来年度は、提言5にあるように、生徒の中に「ピア・サポートである」という意識を持たせた上で、こうした活動を継続し、ピア・サポートの意識を高めたい。